

元祖 モリモリ書店

次回、今年度、最終号の、何ぞいこうかな？

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書だより

3/17(水)春のほんまつり、
まだまだ受付中可。よろしく。
モリモリ

第85話 R03.03.11(木)
「目には見えないけど、
たしかにここにある。」

★今回、紹介する本は、『二重のまち／交代地のうた』（著/瀬尾夏美、出版/書肆侃侃房）です。

東日本大震災から10年がたちました（その間、他にも震災はたくさんありました…）。今回は、津波に流された町をめぐる「架空のストーリー」と「震災に関わる人たちのドキュメンタリー」と、日記みたいな「歩行録」という三部構成の本。最近、ミニシアターなどで、映画も公開されています。

復興が進み、新しい町ができてくるにつれ、そこにあった「かつての町」が失われていく感覚。その感覚を否定するでも肯定するでもなく、一人一人の哀しみやよろこびに寄り添ってくれる1冊。

「空想」と「現実」が混じり合うことで、さまざまな感情が刺激されます。当事者ではないけれど、この話を読むと不思議と「関わられた」思いになれた気がしました。明かりを灯そう。

瀬尾夏美



二重のまち / 交代地のうた

僕の暮らしているまちの下には、
お父さんとお母さんが育ったまちがある

津波に流された町の地面の下に、静かに、しかし厳然として、
かつての町が横たわっているのだと語る瀬尾さんの文章に、
わたしは灯される明かりを見る思いがしたのでした。

書肆侃侃房

——小野和子（読者投稿）

震災の記憶、わたしも紹介したいものがある。モリモリ

見知らぬ人を見て、
泣きために、物語
★があるのではな...ですか。
(P.198)

それぞれは、とても受け入れ
がたいほど悲しいけれど、
その光景はとてもきれいだった。
(p.36)

でも、あれも含め？
俺の人生だから
忘れたくないよ。
(p.123)

復興がただずばらしい
とは言えなくなったり...
やっぱり、色々事はいけない
ね。

時折
はさみ子
糸金が
とても
あざ
しい。

BGM:
BRAHMAN
「ナシウタケ」